

学校経営計画

金沢市立緑小学校

1. 教育目標

豊かな人間性をもち、たくましく、自律した児童の育成

「豊かな人間性」：正義感、公正さ、思いやりの心

「たくましく」：心身の健康、忍耐力

「自律した」：自ら考え、判断し、実行する力

2. 教育目標の具現化 『子どもたちが安心して登校できる学校』

(1) めざす児童像 自律した子

- ① 仲良く助け合う子
- ② 自ら学び よく考える子
- ③ 元気で明るい子
- ④ 家庭や郷土を愛する子

(2) めざす学校像 大好きな学校

- ① 一人一人が、安心して生活できる学校
- ② 一人一人が、認められる学校
- ③ 一人一人に、学ぶ喜びのある学校

(3) めざす教師の姿 信頼される教師

- ① 先進的創造的な教育活動を実践する教師
- ② 知性のある、豊かな教養をもつ人間性豊かな教師
- ③ 自己の役割を理解し、学校運営に参画する教師

3. 教育方針

- (1) 家庭や地域と一体となって子ども達を育む「地域とともにある学校づくり」を目指した教育を推進する。
- (2) 基礎基本の確実な定着を図るとともに、子ども一人一人の学力向上をめざした教育を推進する。
- (3) 心の教育の充実をめざし、人権感覚を育み、自分も仲間も大切にする教育を推進する。
- (4) たくましく生きるために、体力の向上、健康の保持増進の意識や能力の育成、安全意識の向上をめざした教育を推進する。

4. 経営方針

- (1) 学校運営協議会と地域学校協働活動を推進し、地域の創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進める。
- (2) 教職員一人一人が、教育者としての使命と責任を自覚し、自己研鑽に励みながら、協働的に学校運営に参画する組織体制をつくる。
- (3) 児童の実態や学習状況に応じた細やかな指導を実践し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
- (4) 個に応じた生徒指導を推進するために、児童理解を深め、教育相談の一層の充実を図る。
- (5) 子どもと向き合う時間の確保のために業務の適正化を図り、働き方改革を推進する。

5. 中期目標と方策

(1) 学校運営全般

① コミュニティースクールの推進

- ア 学校運営協議会を開催し、運営上の成果と課題を明らかにして学校運営の充実を図る。
イ 学校と家庭・地域が連携・協働していくための情報発信を行う。

② 組織的な学校運営

- ア 主幹教諭、各主任、主事が機能する学校運営を行う。
イ 職員会議、運営会議、学年会の効果的実用的な運用をする。
ウ P D C A サイクルによって学校のマネジメント能力を高める。

③ 学級・学年経営

- ア 学年レベルでのきめ細かな学習指導、生徒指導を、学年主任を中心に組織的に行う。
イ 保護者、地域と学校との共通理解と連携協力で児童の自己実現を支援する。

④ 学校評価の充実

- ア P D C Aサイクルを意識した取組を大切にし、改善が次の目標につながるサイクルの持続性を維持する。
- イ 対応策・改善策の検証を十分に行うとともに、評価結果の公表及び説明を十分に行う。

⑤ 学習環境の整備

- ア 整然とした学習環境作りを徹底する。
- イ 子ども達の学習意欲や興味・関心が高まる学習環境をつくる。

⑥ 教職員研修の充実

- ア 子どもを中心とした学校研究を推進する。
- イ 校内 OJT を活用し、実情に即した校内研修を推進する。
 - ・ 特別支援教育研修、生徒指導研修、I C T教育研修
 - ・ 若手教員研修（みどり研、きみどり研）
- ウ 年間を通じた自己研修を推進する。
 - ・ 個人研修計画の作成及び継続的な実践
 - ・ 人事評価による目標管理

⑦ 地域学校協働活動の推進

- ア 地域との連携を積極的に推進する。
 - ・ 俳句作りの推進（二塚海鳴り会）
 - ・ 地域人材の活用
 - ・ 学校行事における地域との連携
- イ 開かれた学校づくりを推進する。
 - ・ 体験活動の充実を図るとともに、子ども達の活動の様子を発信
 - ・ 学校の教育活動をホームページで公開

(2) 学校教育活動

① 金沢型学習スタイルに基づく学習の実践研究

- ア 各教科の授業改善に基づく研究を推進する。
- イ 学習の基盤づくり
- ウ 対話的な学びを具現化する関わり合う場、確かな学びを具現化する終末場面の工夫をする。
- エ 学習意欲のさらなる向上と基礎的基本的な知識・技能の確実な定着を目指す。

② 学力の向上

- ア 基礎・基本の確実な定着を図る。
 - ・ 学び方の基礎基本（話す・聞く・書く）と学習内容の基礎基本（読み・計算・書く）
 - ・ 終末場面での学習ばっちりタイム
 - ・ 朝学習の充実と徹底
 - ・ 家庭学習の習慣化と質の向上
 - ・ 達成感のある授業の工夫（生徒指導の三機能を授業に生かす）
 - ・ 親子チャレンジの充実
- イ 個に応じた指導の実践を図る。
 - ・ 県基礎学力調査、全国学力学習状況調査、県評価問題の結果を生かした授業改善
 - ・ 補充学習の充実
 - ・ 習熟度別少人数授業の充実
- ウ 総合的な学習の時間の充実を図る。
 - ・ 地域との連携を軸に、郷土の理解と愛着を主要テーマとして持続発展教育の実践

③ 体力の向上

- ア 運動量のある体育授業の実践
- イ 体力アップ一校一プラン、スポチャレいしかわの確実な取組
- ウ 見通しをもった体育的行事の実施

④ 生徒指導

- ア 生徒指導の三機能を生かした積極的な生徒指導の実践
- イ 基本的な生活習慣の充実

- ウ 児童理解の会の定期開催
- エ 保護者との確実な連携
- ⑤ 特別支援教育
 - ア 児童理解の会の定期開催
 - イ 特別支援コーディネーターの複数配置と有効活用
 - ウ サポート委員会の充実
- ⑥ 小中一貫教育の充実と発展
 - ア 小中三校連絡会の定期開催
 - イ 「教育課程づくり」「授業づくり」「人間関係づくり」「組織づくり」の充実
 - ウ 小中、小中学校間の児童生徒の交流
 - エ 小中教員の相互授業参観
 - オ 合同研修会の実施
- ⑦ 道徳教育、体験教育の重視
 - ア 道徳教育、心の教育の充実
 - イ 自然活動や体験活動を取り入れた授業の奨励

6. 今年度の重点的な取組目標と具体的方策

- (1) 学習の基盤づくりと基礎・基本の定着を徹底するとともに、「わかる・できる」「楽しい」をふやし、全児童を巻き込んだ授業を実践し、学習意欲の向上を図り、学力の向上をめざす。
 - ① 「みどりっ子まなびのスタイル」の共通実践（特に「聞く」は学習や人間関係のベース）人の話をしっかり聞ける子に育てる。（年間を通して）
 - ② 「やったるでタイム」や単元末テストの取組等、学校研究を柱にした全校での取組を推進
 - ③ ICT を効果的に活用した授業改善の推進
 - ④ 地域教材、地域人材を活用した総合的な学習や補充学習の推進
- (2) 児童理解に立った指導・支援に努め、一人一人が安心して過ごせる居場所づくりに努めるとともに、お互いに認め合い思いやる人間関係を形成できるようにする。
 - ① 授業や様々な教育活動の中で「ほめる・認める・価値づける・励ます」の働きかけを行い、自己有用感を育む。
 - ② 挨拶や言葉遣い、身だしなみ、時間厳守など凡事徹底を全職員（チームみどり）で実践する。ほめて動かすとともにできてないことは教え導き、できたらほめる。
 - ③ 児童理解の会や特別支援教育の研修会の開催（職員会議後や外部人材を招いて）
 - ④ 校内アンケートの実施
- (3) 縦割り活動や児童会活動、学級活動を充実させ、自分の役割に自覚と責任を持たせ、互いのがんばりを認め合い、達成感、満足感を味わわせる。
 - ① ねらいと役割を明確にした取組の推進
 - ② 縦割り掃除、委員会活動、なかよし遊びの充実
 - ③ 行事や様々な活動の中で自己有用感を育む。
- (4) 業務の適正化、効率化を図り、時間外勤務時間を前年度より減少させる。
 - ① 教職員の意識改革の促進、学校行事の見直しと会議の整理・統合
 - ② 定時退校日（月2回）及び最終退校時刻（19：00）の設定と実践
 - ③ 保護者、地域の方々の理解・協力
- (5) 学校と家庭・地域が連携・協働するためのコミュニティースクールを推進する。
 - ① 学校運営協議会の開催（年3回）
 - ② ホームページの充実等、家庭、地域への情報発信
- (6) 感染症対策に取り組む。
 - ① 基本的な感染症対策の指導の継続とその徹底を図る。
 - ② 感染状況をふまえ、感染症対策を取りながら、可能な限りの教育活動の充実を図る。